

横浜市立大学学術情報センター

貴重書 月替わり展覧会リーフレット (165)

2025年6月の作品は

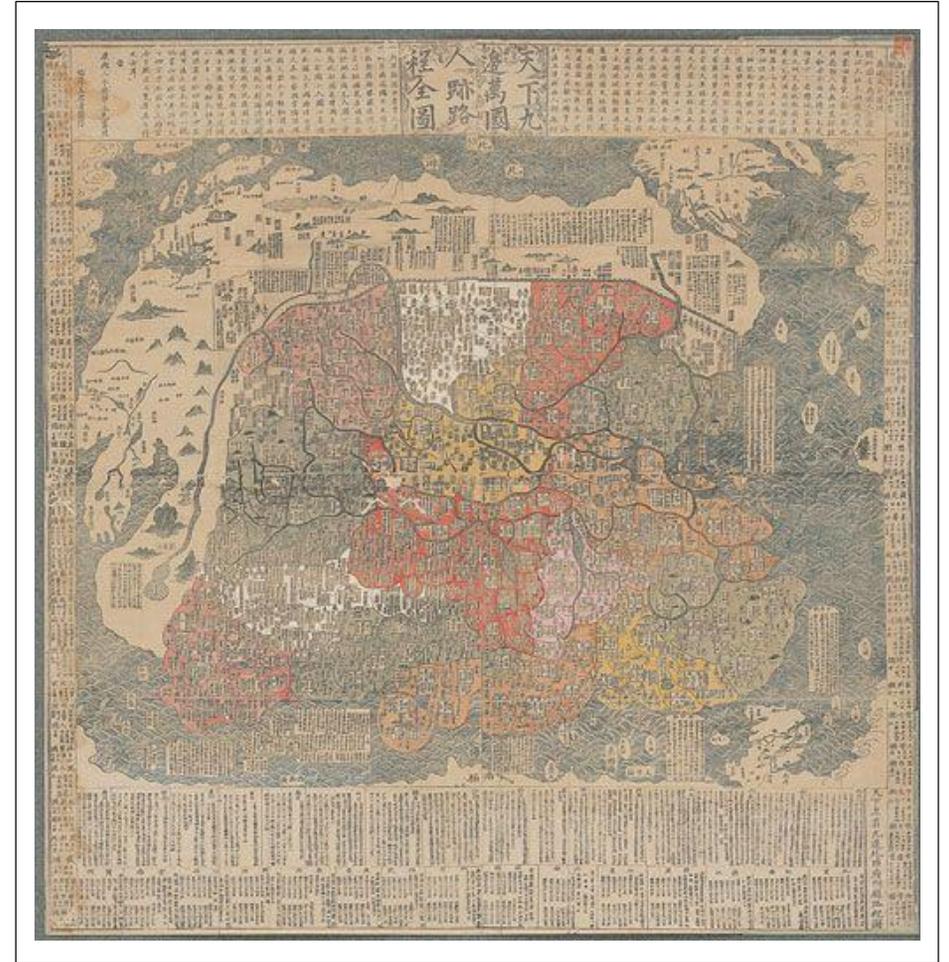
てんかきゅうへんぱんこくじんせきろていぜんず
「天下九辺万国入跡路程全図」

展示テーマ

～当時の中国人が想像する世界地図～

明代の万暦年間、常州府無錫県の梁という儒学者が「乾坤万国全図古今人物事跡」(1593年刊)という地図を刻み、南京吏部四司が印刷した。この地図の作り方は伝統的なもので、中国から遠く離れた国や地方の大部分を小島の形にして、中国の周囲の海に散らす、という方法である。そこにはアジアやヨーロッパだけでなく、北アメリカ、南アメリカの「新大陸」、南極までもが描かれており、その意味で正しく「世界図」と言えるだろう。古代中国が作成した世界図は、「天下図」と呼ぶべきものが多く、「中国」を中心としたアジア・アフリカとヨーロッパを含む地図はきわめて稀であった。

後の時代に登場する「天下九辺万国入跡路程全図」は、より完成された、より参考になる世界図である。この地図の完成後、日本の学者は、王君甫のこの地図を復刻し、そして地図名と地図下の題註を「天下」から「大明」に修正した。「大明九辺万国入跡路程全図」は、地図上に州、県が描かれている以外はほぼ同じ内容で、彩色は施されていない。今回は、「天下九辺万国入跡路程全図」という作品から、当時の中国人はどんな世界観を持っていたのか、どうしてこの世界地図を作ったのかについて、詳しく説明する。



「天下九辺万国入跡路程全図」(1枚) 江戸時代、康熙2年(1663年)

作者:王君甫 版元:不明 縦125cm × 横123cm

「天下九辺万国入跡路程全図」は、康熙2(1663)年の中国人が想像した世界図である。明代の中国の西京、南京と十三省のほとんどの分布を描く。中国の部分は詳しいが、外国の部分は大まかである。この地図は当時の中国人を対象とするが、精巧で色彩が豊かであったため、国内外の市場に出され、日本にも伝わった。イタリアの宣教師マテオ・リッチは中国に行き、たくさんの西洋製品を持参したが、その中であつた「坤輿万国全図」からこの地図を作成した。「坤輿万国全図」は今日の世界地図と似て、経度と緯度のデータも利用して具体的な縮尺サイズも計算されている。当時の中国はまだ縮尺などの概念がなく、

中国を中心とし、ほかの国の位置情報はだまかに書かれた。絵全体は八枚の板をつなぎ合わされており、はっきりとした跡が残る。州都は正方形、色は赤色、郡は楕円形、海や川や湖などの水域はさぎ波で描かれている。康熙2年で、姑蘇出身の王君甫は曹君義が、崇禎17年（1644年）で出版した原画に基づいて作った。



(表紙)



参考「坤輿万国全図」

地図の説明

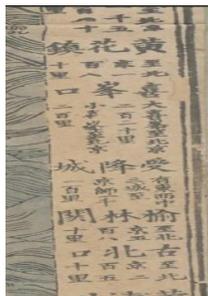
① 地図の上部↓



② 地図の左側↓



③ 地図の右側↓



←④ 地図の下部



- ① 上部：テーマと文言文で全体の説明
- ② 左側：外国国名と紹介（例えば、日本国と西播国など）
- ③ 右側：重要な辺防
- ④ 下部：各省の情報

展示のみどころ

～天下九边万国人跡路程図から後世への意味～

明代中国は海禁政策をとっていたが、実際にはアジアやヨーロッパとの交流を完全に断ったわけではなく、域外知識は様々なルートを通じて輸入されており、地図の紙面はおびただしい文字情報で埋め尽くされていた。これらの文字には明代の重要な地名や歴史概況のほか、域外各国の物産や風俗、北京や南京までの距離なども記載されている。

中には、伝説や想像から由来する記述もある。例えば、毛人国という、人はすべて卵生で、嘴は翼があり、遠くまで飛ぶことができるという伝説の国が描かれている。この地図には毛人国の他にも、「女人国」「小人国」など、中国古典伝説上の地名も記されている。この地図は、古地図の作成習慣をはるかに超えており、しかもその地理知識は、当時の中国人の多くが把握できるものを超えていたのである。

この地図は、明代末期の中国知識界主流の世界に対する認識を反映している。当時の中国人は西洋の地理学の知識と、明代の地理知識を組み合わせることでこの地図を作成した。この地図は真実と想像が入り交じっており、旧知と新知が一体となった「世界図」となった。現在、中国第一歴史博物館と北京大学図書館に所蔵されている『大明九边万国人迹路程全図』は、清の康熙2（1663）年に姑蘇王君甫が曹君義図を手本にして編纂した世界地図である。

参考文献

- ・Baidu 百科「天下九边分野人迹路程全图」：<https://baike.baidu.com/item/天下九边分野人迹路程全图/10247430>（最終閲覧 2024 年 11 月 18 日）
- ・国立台湾歴史博物館 王君甫「天下九边分野人迹路程全图」：https://openmuseum.tw/muse/digi_object/74b734e372cc6cca45929a8347ad180c（最終閲覧 2024 年 11 月 18 日）
- ・東北大学総合知デジタルアーカイブ「坤輿万国全圖」：https://touda.tohoku.ac.jp/collectio_n/database/library/public/10010000025430?page=1（最終閲覧 2024 年 12 月 9 日）

あとがき ～貴重資料に触れて～

今回素晴らしい古地図の扱いを通じてその時の人の世界観と知識を得て資料についてもたくさん調べてとても勉強になった。

※コレクションの閲覧は、作品保護のため、展示品を除き申請が必要です。また利用は学術研究目的に限らせていただいております。

※過去の展示はオンラインでも公開中です！

※第166回展示は令和7年7月上旬からを予定しています。



令和7年6月2日発行
令和元年度 日本文化論A 受講生 編集
236-0027 横浜市金沢区瀬戸 22-2
横浜市立大学 学術情報センター